



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、
健康でたくましい生徒の育成

東中だより

圓 困 目 標

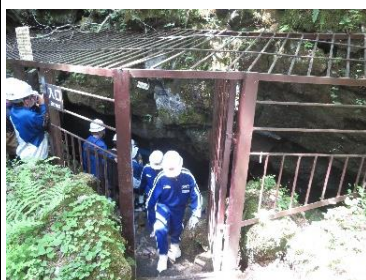
- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、
思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

5月の行事（1. 2学年の校外学習）

5月に入り、各学年で校外学習行事が行われました。昨年度から準備を進め、新年度がはじまってからの初めての大きな行事でした。昨年度までと異なり、新型コロナ後の学校教育活動の在り方を探りながら計画・実施する校外学習となりましたが、新しいクラスの仲間たちと、それぞれの学年で特色ある活動が行われました。

1学年 校外学習「春」

1年生の校外学習は5月11日(木)に日帰りで行われました。今後も校外学習が続くので、今回は「春」という季節名が付けられています。



今回の学習は、以下のような学校教育の目的をもって行われました。

①集団生活を通して、自立心、責任感、社会連帯感の規律ある態度



と社会性を身に付け、人間関係を深める。

②豊かな自然環境の中で、自然に親しみ、自然を愛する心情を育てる。

③校外学習を通し、生徒間及び教職員との協力・親睦を深め、学級・学年づくりの機会とする。

このような目的を達成するために、訪れた見学地は、「ふじさん牧場」、「西湖コウモリ穴」、「樹海散策」、「富岳風穴」でした。

そして、これらの日程を通して、生徒たちは次のような感想とともに、多くのことを学びました。

■感想

- ・現地では、説明などの話をみんなよく聴いていた。
- ・いのちの授業が一番よかった。

- ・樹海散策ではガイドさんが熱心に教えてくれた。
- ・教えていただいた知識を今後の生活で生かしていきたい。
- ・富士山や富士山周辺のことや歴史なども、さらに気になった。
- ・仲間とのコミュニケーションを持てた。
- ・食べ物に好き嫌いはあるけれど、感謝して食べたいと思った。



特に、ふじさん牧場では、生命の大切さや人間と他の生き物との関

わりなどについて、かわいい子羊の世話の体験を通して次のような貴重な学びを得たようでした。



・生まれたばかりの羊をどう育てるかということ。

- ・母子を1週間同じ部屋に入れて親子であることを理解させないと、その後牧場の中で



は、母親は世話もせず蹴り飛ばしてしまうこと。

- ・羊の世話、出荷するときの生産者としての想

いを知ったこと。

- ・ふじさん牧場で育った羊からできたソーセージの試食をしたこと。「おいしかった」「世話をしたときのことを思うと複雑な気持ちになる」「羊のことを思い出したけどおいしい」などの感想を持ったこと。

社長さんは、「食事をするとき、この食材はどんなふうにしたのか想像して食べると、違った食事の楽しみ方ができる。感謝していただくことを忘れないで欲しい」との想いを生徒たちに伝えてくださいました。



生徒たちは、大切な生命は、お互い支え合って存在していることを実感を持って学ぶことができたように思います。

このような生徒たちの感想や学びは、今回の行事の目的に迫る成果であったのではないのでしょうか。本当にお疲れさまでした。



なお、本行事の詳細は、本校ホームページに1学年通信を掲載していますので、ご覧ください。

続きまして、2学年の校外学習の様子です。

2学年 社会体験学習

2学年は、去る5月11日(木)～12日(金)の1泊2日で「社会体験学習」を実施しました。本行事の目的は以下のようなものです。



①山梨県の歴史・文化・産業・名所(自然)に触れ、主体的に学習を深める機会とする。

②テーマ別行動や体験学習などの活動を通して、自分自身の生き方について考える機会とする。

③グループ、学級、学年の活動を通して、人間関係を学び、修学旅行の事前学習の一環とする。

教職員は上記の目的をもって生徒たちに取り組ませますが、生徒たちは生徒たちで主体的に次のような目標を設定しました。

「自分たちで計画して、山梨県についての学びを深めよう。」

生徒たちは、来年度の修学旅行を見据えてこの目標を立て、1日目の班別自主行動の見学場所や移動方法などはすべて自分たちで計画しました。今回は、班、クラス、学年など、大小の様々な集団での活動が予定されていま

したが、活動を通して仲間との絆を強め、人間関係を深め、意欲的に活動できるよう、自分たちで自分たちの生活する環境をよりよいものにしていくことに努力しました。また、東桂中学校の代表であるという自覚を持って公共のマナーを守り、ケガなどもなく安全に活動することにも留意しました。

1日目の班別自主行動は、朝、東桂中を出発



し、事前に計画した見学コースを巡って甲府駅に集合するというものでした。事前の計画とは異なり、バスの時間帯が違っていたり臨時休業日だったりして思わぬハプ



ニングもありました。スマートフォンがない不便な状況でも、観光案内所や近くの人、バスの運転手さんなどに尋ねたり班員で相談したりして困難を乗り越えていました。

夜は、ハケ岳の宿舎でキャンプファイヤーを行いました。輪にな



った学年の仲間の真ん中で燃え上がる炎を囲み、学年で心を一つにして取り組みました。学年のリーダー集団(学年委員会)がよく頑張っ

て、企画・運営しました。

2日目

は、山梨県庁防災新館を訪ね、災害対策本部、水害対



策ルーム、近代人物館、石垣展示室、通信指令課、交通管制センターなどを見学しました。近くで見る信号機の大きさ、歩行者用信号機の音が「ピヨピヨ」と「かっこう」という名前であること、110番を受けるコンピュータの数の多さ、実際に犯人を確保する警察官のすごさなど、たくさんの知らないことを知って、驚きの連続だったようです。何人も積極的に手を挙げて質問したり一生懸命にメモをとったりして、熱心に学ぶ2年生の姿がありました。



その後、山梨県立考古博物館を訪ね、火おこし体験、土鈴

づくり体験、博物館見学、古墳見学を行いました。火おこし体験では、古代の人々の生活に思



いを馳せながら仲間と励まし合いながら必死に火をおこしていました。実際に火が付くと歓声が上がっていました。

当日に向け、事前の学年総会などで、どのような社会体験学習にしていけばよいのかを学年全員で考えました。自分たちの生活は自分たちで創り上げていくという「自治」の力を、さらに身に付けることができたのではないのでしょうか。この経験を、ぜひ今後の生活や修学旅行に繋げていけるよう期待したいと思います。



ホームページには2学年通信を掲載しています。よろしければご覧ください。

1, 2年生の保護者の皆様、今回はこのような学校行事にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。今回の生徒たちの学びを今後の生活や学びに一層生かしていけるよう教育活動を展開してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

次号では、3学年の「修学旅行」の様子を特集します。また、各学年の校外学習が、すべての学年を通して捉えたとき、本校の教育課程の中でどのような意図によって計画されているのかも紹介させていただければと思います。